

# 協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 039

## (2021/22年度 USDA 米国農務省 10月12日発表)

## 【ハイライト】

- ① シカゴ穀物相場は高値圏で推移；先月好調な生産予測と中国需要の減退予測等で若干弱含んだ穀物相場は、今月は下記に示すとおり大豆は期末在庫増の為小幅下落、小麦/コーンは幾分上昇した。これは5月の高値（小麦/コーン\$7.7,大豆\$16.6/bu）比2割程下落となるが、全体では2014年以來の高値圏を維持している。
- ② 米国のコーン/大豆生産は史上最高見通し；別表で示す通り米国のコーン/大豆生産は8月のハリケーン被害はあったが史上最高を更新する見通しである。USDA 9/10需給報告ではコーン収穫面積 8,510 万エーカー・単収 176.3bu・生産量 381 百万ト。大豆は同じく 8,640 万エーカー・50.6bu・119 百万ト！となり歴史的単収が生産拡大を牽引した。ただし、小麦は北部産地の早魘のため 10% 減産となった。
- ③ BRA 大豆は好調、コーン輸出は大幅減少；BRA 国家食糧供給公社 (CONAB) の 10/7 発表によると生産/輸出数量ともほぼ別表 USDA 数値と近いが、足元では今年裏作コーン収穫前の早魘/霜害の為減産となり、この 1-9 月輸出数量は 1,307 万トと前年同期比 ▲34.3 % となり、東南アジアや日本向け輸出も 5 割程度減少した。
- ④ FAO 世界食糧価格指数が大幅上昇；FAO 食糧価格指数（穀物/植物油/食肉/乳製品/砂糖の 5 品目合計指数）は、2020 年 5 月以降 12 ヶ月連続上昇し 10/7 発表の 9 月数値は 14-17 年=100 比 130 % と大幅上昇し 2011 年以來 10 年ぶりの高い数値となった。特に穀物は 27%、パーム油等植物油は 61% 上昇と大幅である。
- ⑤ 日本国内食糧/食品価格も上昇続く；上記の様な状況を受け、国内の食品価格上昇も様々な分野に於いて顕著である。政府の輸入小麦売渡価格は昨年 10 月 49,210 円⇒今年 4 月 51,390 円⇒この 10 月 61,820 円/トとこの一年間で 12,610 円（約 26%）上昇、これに伴い関連するパン/うどん等の小売価格も上昇。また同様に、配合飼料価格も昨年 10 月以降 4 期連続含め合計 14,200 円（約 25%）値上げ。輸入牛肉価格も 8 月米国産バラ肉 1,075 円/キと去年同期 590 円の約 2 倍、鶏肉も約 5 割高。これを受け牛丼は 10 月から 320 円⇒380 円、牛タンは 1,700 円⇒1,980 円と軒並み上昇。
- ⑥ フレート・物流コスト上昇が止まらない；穀物市況の上昇と併せてこの食糧食品価格上昇をもたらしているもうひとつの要因が物流コストの大幅上昇である。Gulf-日本 PMX フレートは昨年 4 月以降 半年毎で \$31.16⇒\$41.51⇒\$56.55⇒\$77.99/トと何と約 2.5 倍！北米西岸-日本 20X 小麦も \$46⇒\$97 と高騰著しい。

## 1、世界穀物需給の概要（大豆除く）

- ① 生産量：2,781 百万ト（前年比 2.9%増、前月比 0.2%減）
- ② 消費量：2,785 百万ト（前年比 2.3%増、前月比 0.2%減）
- ③ 貿易量：499 百万ト（前年比 3.9%増、前月比 0.4%増）

## 2、とうもろこし

- ① 生産量：1,198 百万ト（前年比 7.4%増、前月比±0）
- ② 消費量：1,186 百万ト（前年比 4.9%増、前月比±0）
- ③ 貿易量：202 百万ト（前年比 13.5%増、前月比 0.3%増）
- ④ 概況：世界の生産量は前月比米国/EU が微増し前年比 7.4%増の史上最高の 12 億トに手が届くレベル。消費も好調で前年比大幅増。貿易量は中国輸入 26 百万トと堅調で史上初めて小麦貿易量と同様に 2 億トンの大台に乗せた。期末在庫 302 百万トと微増/うち中国 209 (70%) 米国 36/BRA 8 百万ト。
- ⑤ 価格は \$5.42/Bu（前年\$3.80/Bu、前月\$5.08/Bu）と前月比 43 上昇。

## 3、小麦

- ① 生産量：776 百万ト（前年比±0、前月比 0.6%減）
- ② 消費量：787 百万ト（前年比 0.8%増、前月比 0.3%減）
- ③ 貿易量：200 百万ト（前年比±0、前月比 0.1%減）
- ④ 概況：世界生産量は天候不順の為米国/CAN が減少し前月比 4 百万トの減少となったが史上最高見通し。消費量も中国等の増加により史上最高見込みは変わらず。貿易量もとうもろこし同様 2 億トンの大台乗せ、穀物全体ではほぼ 5 億トとなった。期末在庫は前月比 6 百万ト減の 277 百万ト/うち中国は 141 百万ト (51%)。
- ⑤ 価格は \$7.55/Bu（前年\$5.73/Bu、前月\$7.15/Bu）と前月比 40 上昇。

## 4、大豆

- ① 生産量：385 百万ト（前年比 5.4%増、前月比 0.2%増）
- ② 消費量：377 百万ト（前年比 4.1%増、前月比 0.3%減）
- ③ 貿易量：173 百万ト（前年比 5.0%増、前月比 0.1%減）
- ④ 概況：世界生産量は米国が 121 百万トと前月比 2 百万ト増、BRA は 144 百万トと変わらず、全体 385 百万ト史上最大見通し。消費量は ARG の搾油料減から下方修正。貿易量は 173 百万トと前年比 5 % の大幅増。期末在庫 105 百万トと前月比 6 百万ト増/うち米国僅か 9、BRA 28 百万ト。
- ⑤ 価格は \$12.47/Bu（前年\$10.21/Bu、前月\$12.83/Bu）前月比 36 下落。以上

# 世界の穀物・大豆等の需給

2021年10月12日  
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2018/19	2,676	3,485	449	2,672	813		
	2019/20	2,708	3,521	478	2,728	793		
	2020/21	9月	2,785	3,580	497	2,791	789	
		10月	2,781	3,574	499	2,785	788	
小麦	2018/19	762	1,043	194	748	295		
	2019/20	775	1,070	201	781	288		
	2020/21	9月	780	1,073	200	790	283	
		10月	776	1,064	200	787	277	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2018/19	1,415	1,767	211	1,431	337		
	2019/20	1,426	1,763	228	1,443	320		
	2020/21	9月	1,497	1,813	249	1,490	324	
		10月	1,494	1,814	250	1,486	328	
大豆	2018/19	340	454	165	359	95		
	2019/20	365	461	165	362	99		
	2020/21	9月	384	480	173	378	101	
		10月	385	484	173	377	107	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	286.48	1,197.77	185.95	1,186.62	201.27	297.63
	10月	289.99	1,198.22	183.85	1,186.46	201.91	301.74
アメリカ	9月	30.15	380.93	0.64	313.07	62.87	35.77
	10月	31.41	381.49	0.64	311.93	63.50	38.10
アルゼンチン	9月	2.12	53.00	0.01	14.50	38.00	2.63
	10月	2.12	53.00	0.01	14.50	38.00	2.63
ブラジル	9月	4.73	118.00	1.70	73.00	43.00	8.43
	10月	4.73	118.00	1.70	73.00	43.00	8.43
EU	9月	6.94	65.50	15.00	76.30	3.80	7.34
	10月	6.89	66.30	15.00	76.80	4.10	7.29
日本	9月	1.39	0.00	15.60	15.85	0.00	1.14
	10月	1.39	0.01	15.60	15.85	0.00	1.15
中国	9月	202.19	273.00	26.00	294.00	0.02	207.17
	10月	204.19	273.00	26.00	294.00	0.02	209.17
ウクライナ、 ロシア	9月	1.74	54.50	0.07	17.90	36.80	1.60
	10月	1.64	53.00	0.07	17.40	36.00	1.30

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	95.08	384.42	170.94	378.37	173.17	98.89
	10月	99.16	385.14	170.62	377.27	173.08	104.57
アメリカ	9月	4.76	119.04	0.68	62.57	56.88	5.04
	10月	6.97	121.06	0.41	62.85	56.88	8.71
アルゼンチン	9月	24.60	52.00	4.70	50.35	6.35	24.60
	10月	25.75	51.00	4.70	49.40	6.35	25.70
ブラジル	9月	26.60	144.00	0.65	50.35	93.00	27.90
	10月	26.95	144.00	0.65	50.35	93.00	28.25
中国	9月	32.80	19.00	101.00	117.70	0.10	35.00
	10月	33.72	19.00	101.00	117.70	0.10	35.92
EU	9月	1.09	2.83	15.00	17.62	0.23	1.08
	10月	1.09	2.73	15.00	17.62	0.23	0.98

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	292.56	780.28	197.05	789.63	199.74	283.22
	10月	288.36	775.87	198.05	787.05	199.63	277.18
アメリカ	9月	22.97	46.18	3.67	32.28	23.81	16.73
	10月	23.00	44.79	3.40	31.60	23.81	15.79
アルゼンチン	9月	3.19	20.00	0.00	6.45	13.50	3.24
	10月	2.69	20.00	0.00	6.45	13.50	2.74
オーストラリア	9月	4.38	31.50	0.20	8.20	23.00	4.88
	10月	3.88	31.50	0.20	8.00	23.50	4.08
カナダ	9月	5.71	23.00	0.70	8.00	17.00	4.41
	10月	5.69	21.00	0.70	7.90	15.00	4.49
EU	9月	10.07	139.00	5.40	108.50	35.00	10.97
	10月	10.02	139.40	5.30	108.50	35.50	10.72
中国	9月	144.12	136.90	10.00	149.00	1.00	141.02
	10月	144.12	136.90	10.00	149.00	1.00	141.02
インド	9月	27.80	109.52	0.03	105.00	3.50	28.85
	10月	27.80	109.52	0.03	104.50	4.00	28.85
ロシア	9月	11.98	72.50	0.50	40.00	35.00	9.98
	10月	11.98	72.50	0.50	40.50	35.00	9.48
ウクライナ	9月	1.51	33.00	0.10	9.40	23.50	1.71
	10月	1.51	33.00	0.10	9.40	23.50	1.71

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。



## 「代替肉」普及の現状と食肉・食糧需給の将来(5)

- ① 今まで4回にわたって、「代替肉」普及の背景・市場予測・ハラル市場との関係・代替蛋白源の多様性・主要メーカーの蛋白原料用実態等について述べ、これが2050年における食肉・穀物需給等にどう関連するのかについて見通してきたが今回はスタートアップ企業も含めた食肉/食品業界の「代替肉」商品の**具体的取扱状況**について整理をしたい。
- ② 歴史を辿ると2010年前後に「代替肉」市場において先駆的役割を果たしたのは、米国における**スタートアップ企業**であるビヨンド・ミート社(Beyond Meat)とインポッシブルフーズ社(Impossible Food)の2社と言える。その生成は、  
**※Beyond M社**⇒2009年設立、100%ビーガンの「beyond meat」を市場投入。Whole Food Market/Tesco/Subway/Mac/KFC等に次々と供給しこの世界を切り開いた。2019年Nasdaq上場。  
**※Impossible F社**⇒2011年設立、「impossible burger」を米国Burger Kingに提携販売。その後レストランやCa州スーパーでの販売も開始。ビル・ゲイツ等著名人や複数の投資会社が出資。この2社は、主にMac等の**ファストフード店や自然食品店等に商品展開**し裾野を拡大、その後**食肉/食品メーカーや食品量販店が追随**し市場が大きく発展する流れとなった。「代替肉」が世に出て僅か10年程度でこの世界市場規模は現在**\$110億(1.2兆円)**と試算され10年後には**約10兆円市場**と目されているのは驚異的と言える。
- ③ 当初、欧米では代替肉市場の拡大は食肉業界にとって大きな脅威となり、代替肉の「**meat**」表示禁止、「bacon」「hamburger」「chicken nuggets」等の**表示規制**の運動を行いこれを阻止しようとしたが代替肉普及の勢いを止めることは出来ず、彼らは無駄な抵抗を諦め自ら代替肉市場に参入する道を選んだ。現在、【表1】に整理したように代替肉製品は**欧米食肉会社を中心に商品ラインを拡大**し、米国では2016年世界第二の食肉会社Tyson FoodsがBeyond Meat社の株式を5%取得、2019年独自の代替肉ブランド「Raised & Rooted」を立ち上げた。またカナダ最大の食肉会社Maple Leaf Foodsは2017年既存の代替肉会社2社を買収、「Green Leaf」のブランドで代替肉商品を販売、米国インディアナ州で3億ドルを代替肉施設に投資するとしている。更にEU最大の鶏肉加工会社PHW Gruppe(独)は、「Wiesnhof」のブランドでソーセージ等の販売を開始、Beyond Meat社との提携も進めている。
- ④ その他、欧米ではVegan大国ドイツを筆頭にイスラエル/英国/スイス/オランダ/フランス/イタリア等各国で食肉会社の代替肉市場参入が相次ぎ**現在大手で約30社の参入**が確認され**その商品群は極めて多彩**である。この様な動きは、ネスレ/テスコ/ユニリーバ/ダノン等の大手食品会社や食品小売会社にも波及し、食品小売業者の約半分が「代替肉コーナー」を設けているとの報告もある。大手の具体的な動きでは、2017年9月**ネスレUSA**が植物ベースの冷凍食品や冷凍バーガー製造会社であるSweet Earthを買収。2018年12月**ユニリーバ**が同様に代替肉会社であるThe Vegetarian Butcherを買収し2020年には乳代替品も含め植物肉10億ユーロ/年の売上げを目指すとした。2020年5月ヨーグルトメーカー**ダノン**は世界の植物性食品売上げを2025年には約50億ユーロ(19年の2.5倍)としたことも大きく取り上げられている。
- ⑤ 一方日本では、ここ数年Mos等のファストフード店が「**Plant-based Burger**」の販売を開始、それと歩調を合わせ大手食品や食肉メーカーが相次いで市場参入を行っている。各メーカーのブランド・商品名等については【表2】に整理しているが、先月号でも一部触れた欧米と比較したその特徴は ① タンパク原料は商品名にも表されている様にその**大半が「大豆」** ② 多くの商品に卵/乳製品が使用された**Vegetarian仕様**(一部マルコメ等商品はVegan仕様)のため海外市場対応は不十分。③ **首都圏を中心に大手スーパーでの代替肉取扱店舗数は徐々に増加しているが、まだ商品数/売場面積が限定的**であり消費者へのアピール効果は不十分である、等が上げられ、欧米と比べ**ようやく緒に就いたレベル**と言える。この中で表中の**DAIZ**は代替肉の日本版スタートアップ企業。2015年設立、資本金13億円。株主は農林中金/丸井/味の素/日鉄物産/丸紅等20数社と多岐に渡っている。現在コロナ禍で「代替肉」市場は成長が鈍化し、先行Beyond Meat社等株価も低迷しているが、この代替肉普及の背景を考えれば世界的に今後拡大する可能性は高く、国内外問わず食肉/穀物/食品等に係る**全ての業界がその動向を注視し、対処方法を模索**していると言える。(続く)

【表1】 欧米の主要食肉メーカーの代替肉ブランド

【表2】 日本の食肉・食品メーカーの代替肉商品

	食肉会社	国	植物性肉を扱っているブランド
1	Smithfield	USA	Pure Farmland
2	Tyson Foods	USA	Raised & Rooted
3	Maple Leaf Foods	Canada	Greenleaf: Field Roast, Lightlife
4	Soglowek	Israel	Zoglo's
5	Heck	UK	https://www.heckfood.co.uk/
6	Enkco	Netherlands	Vivera
7	Monique Ranou	France	Les Vegetales
8	Golfera	Italy	Nel Solco Della Natura
9	PHW-Gruppe	Germany	Wiesnhof Veggie
10	Heristo/Recker	Germany	LikeMeat

	メーカー・ブランド	商品名	訴求内容	卵・乳	商品数	販売
1	マルコメ	大豆のお肉~タイプ	低脂質、高タンパク	なし	6	常温
2	大塚食品(ゼロミート)	お肉不使用~	お肉みたいで、美味しい大豆!	✓	4	冷蔵
3	伊藤ハム(まるでお肉!)	大豆ミートの~	低コレステロール(ハンバーグ、揚げ物)	✓	12	冷蔵
4	日本ハム(ナチュミート)	大豆ミート~タイプ	豊かな食感、風味(ハム、ソーセージ)	✓	6	冷蔵
5	米久	お肉屋さんのお肉MEAT~	高タンパク質	✓	2	冷凍
6	イオン	大豆から作った~	タンパク質、脂質(ハンバーグ)	✓	6	冷蔵
7	ネクストミーツ	NEXT~	植物性100%、添加物・化学調味料不使用	なし	2	冷蔵
8	DAIZ	ミラクルミート	発芽大豆使用、NON GMO使用	?	4	冷凍
9	日清&全農	Smart Table ニッポンエール	国産大豆100%使用	✓	2	冷凍

※卵・乳製品使用は一部商品を除く